

平成26年10月31日

愛知県 地域包括ケアモデル事業、在宅医療連携拠点推進事業 合同報告会

受託事業名 在宅医療連携拠点推進事業

尾北医師会 在宅医療連携拠点推進事業 中間報告

一般社団法人尾北医師会
在宅医療連携拠点推進室
室長 宮島まち子

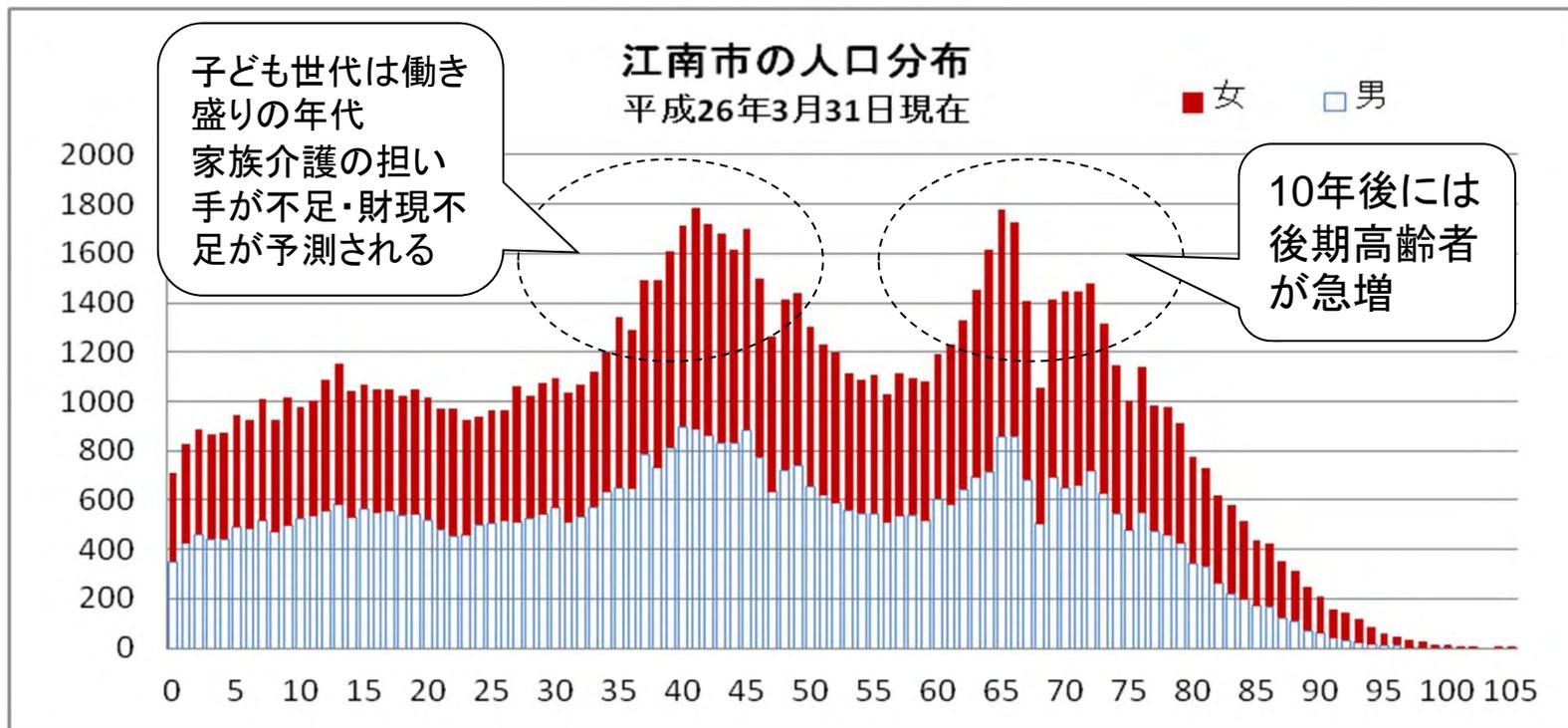
尾北医師会管内地域の特徴

- ・尾北医師会 会員数:A会員133名 B会員152名 医療機関数:132機関
江南市・犬山市・丹羽郡大口町、扶桑町 (平成26年9月1日現在)
- ・2市2町の75歳以上高齢者のピークは自治体ごとに差があるが、高齢者を支える世代の減少と財源不足の予測は共通している。

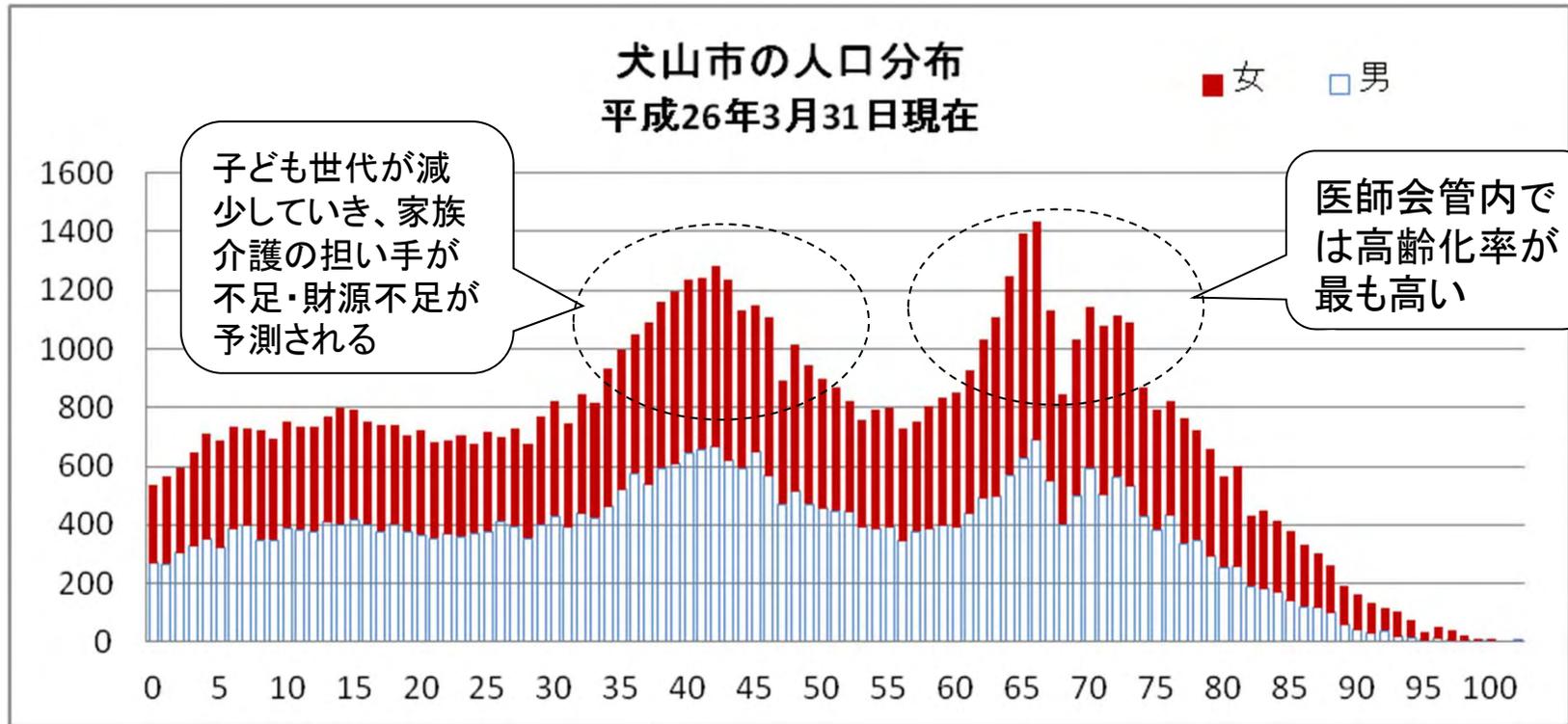
自治体名	人口	高齢者数	高齢化率
江南市	101,235	25,132	24.8%
犬山市	74,881	19,574	26.1%
大口町	22,485	4,805	21.4%
扶桑町	34,346	8,477	24.7%

平成26年3月31日現在

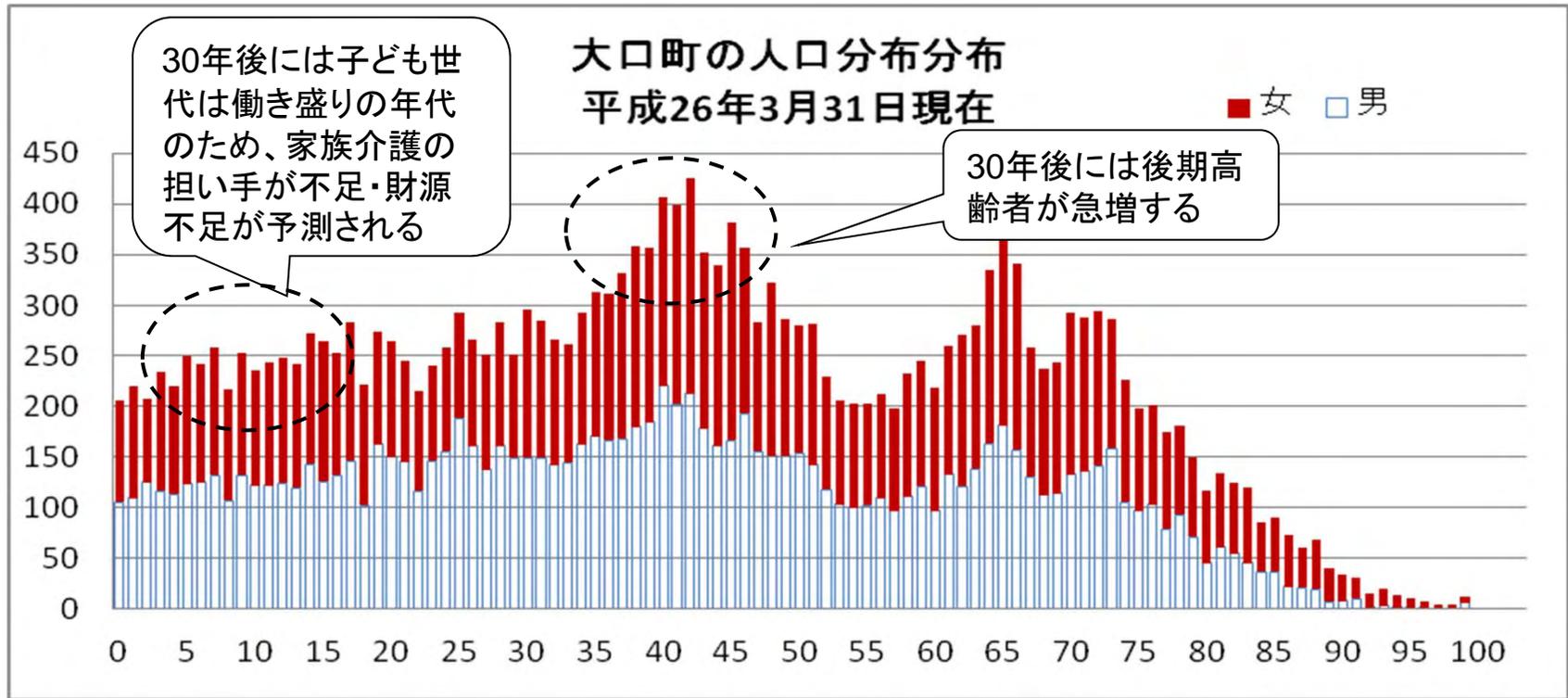
江南市の人口構成



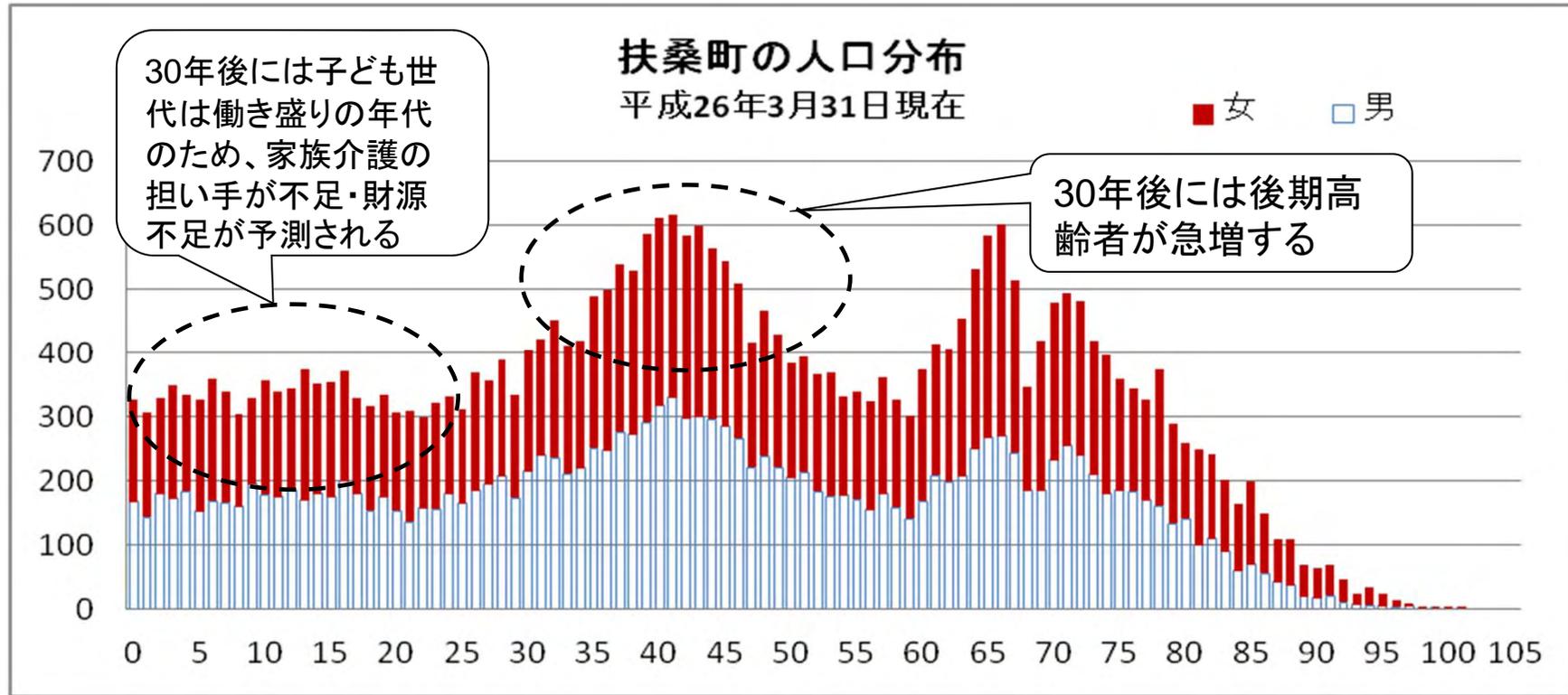
犬山市の人口構成



大口町の人口構成



扶桑町の人口構成



尾北医師会の特徴

1. 尾北医師会の強み

- ① 平成12年から地域ケア協力センターを設置して社会福祉士を配置し、従来から多職種連携に向けた取り組みを実施している。
 - 医師会管内のケアマネジャーを対象とした事例検討会や、介護事業者を対象とした研修会を継続的に実施し、介護従事者との「顔が見える関係」をつくっている。
 - 管内2市2町の高齢者及び介護保険担当課と定期的に連絡会を設けており、広域的に高齢者問題に関する課題を把握している。
 - 管内2市2町の地域包括支援センターと定期的に連絡会を設けており、広域的に高齢者問題に関する課題を把握している。

尾北医師会の特徴

1. 尾北医師会の強み

- ② 補助事業実施にむけて江南市内の多職種の方の協力を得て、在宅医療支援ネットワーク会議や作業チームを設置し、参加者の意見を反映した事業を進めることができている。

2. 尾北医師会の弱み

- ① 在宅医療について関心が高い医師とそうでない医師との差が大きく、研修会や交流会への医師の参加が少ない。
- ② 広域的な取り組みを行なうためには保健所との協働が必要だが、現状では保健所の機能を活かした協力依頼ができていない。

江南市の特徴

1. 江南市の強みとそれを活かした活動

- ① 江南市が実施する健康診査の説明会に、江南市内医療機関の出席率が高い。
- ② 江南市が実施する健康フェスティバルに、医師会・歯科医師会・薬剤師会の協力が得られている。
- ③ 江南市の独居高齢者見守り支援や認知症、高齢者虐待に関する対応では、地域包括支援センター、医療ソーシャルワーカー、ケアマネジャー、社会福祉協議会などの専門職・機関とのネットワークができている。
- ④ 母子保健では、江南厚生病院の医療ソーシャルワーカーと定期的に連絡会を設けている。

江南市の特徴

2. 江南市の弱み

- ・ 市民のニーズ調査では「介護が必要になったとき、自宅で生活したい」という意見が半数以上あった。行政と専門職とのネットワークはできつつあるが、在宅医療に関する体制の構築が十分できているとはいえない。

尾北医師会管内地域の弱み⇔強み

- ① 医師会が2市2町（江南市・犬山市・丹羽郡扶桑町、大口町）にまたがっており、地域によって多職種ネットワークや社会資源、財源等の課題が異なる。
- ② 平成27年度以降、在宅医療連携を管内に広げていく場合、他市町の課題を把握していく必要がある。



ICT導入など、共通する課題については
広域的に広げていくことが可能である。

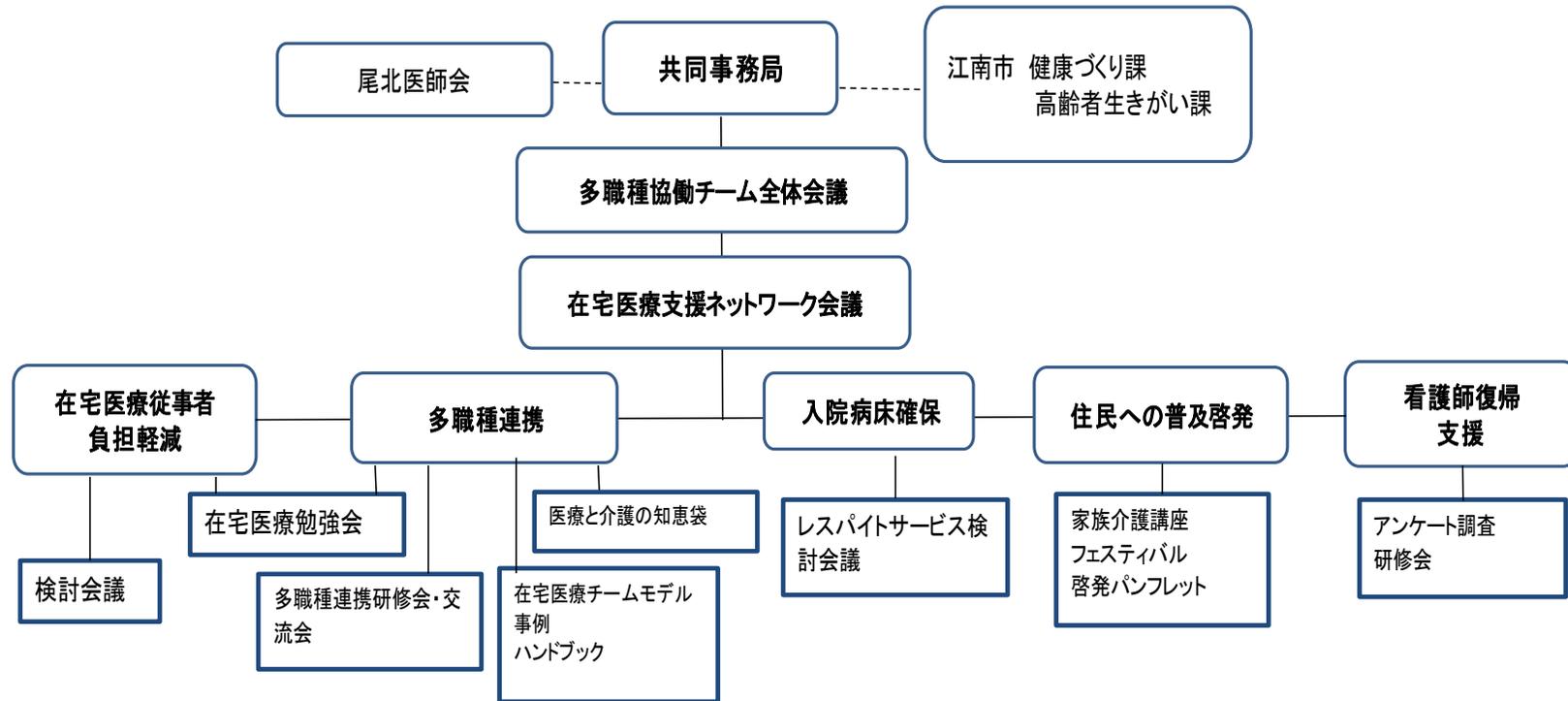
担当組織

1. 事務局 尾北医師会・江南市共同事務局

趣旨	尾北医師会・江南市の共同事務局において、本事業を円滑に進め、次年度以降も継続していくための各種打ち合わせを実施している。
構成メンバー	江南市健康づくり課 2名(保健師) 江南市高齢者生きがい課 2名(保健師、事務職) 尾北医師会 会長、事務局長 尾北医師会 在宅医療連携拠点推進室 2名(保健師、社会福祉士)
開催実績	<ul style="list-style-type: none">平成25年度(1月～3月):7回平成26年度(4月～9月):13回
今後の予定	毎月1回以上の定例的な開催を予定している



組織図



担当組織

2. 現状

- ① 会議や事業の前に打ち合わせを行っているが、江南市と尾北医師会の都合が合わずタイムリーに打ち合わせができない。
- ② 尾北医師会では、在宅医療連携拠点推進室を立ち上げ、事業の実施にあたっているが、計画の遂行に追われている。
→ 限られた時間の中で、4月から9月までの期間に13回の事務局会議を実施。
- ③ 江南市と共同事務局で事業を進めているが、行政と医師会の役割が明確にされていない。

担当組織

3. 解決策

- ① 江南市では、課内職員を対象に、地域包括ケア構築に向けて、担当者が講師となり介護保険制度の改正を踏まえた現状や課題、在宅医療などの勉強会を実施。
- ② 尾北医師会では、病診連携・施設間連携委員会を立ち上げ、在宅医療に関する課題について検討する場をもつことを予定している。
- ③ 広域で対応が必要な事業は、尾北医師会管内自治体や保健所の役割を理解し、連携を密に図る。

担当組織

4. 提案

- ① 在宅医療を推進するためには、医療用語が分かる担当者、事務作業を行う担当者の配置が望ましい。
- ② 専門職などとの関係づくりができるコーディネーター能力が高く、在宅医療の推進に意欲的な職員の配置が必要。



地域の顔の見える関係作り 1

～在宅医療支援ネットワーク会議～

○会議実施にあたっての事前準備

- ・平成26年5月の支援ネットワーク会議の立ち上げに向けて、担当者1名が構成メンバー全員を訪問し、事前説明と協力依頼を行った。

時 期:平成26年4月

訪問先:歯科医師会の代表・薬剤師会の代表

訪問看護ステーションの管理者 3名

医療ソーシャルワーカー 2名

地域包括支援センターの管理者 1名

介護支援専門員団体の代表 1名

○メンバーの反応

- ・必要なことなので協力したい。
- ・いつ声がかかるのか待っていた、取り掛かりが遅いのではないか。
- ・学区単位など、小地域での取り組みを進めてほしいという意見があった。

在宅医療支援ネットワーク会議

趣旨	本事業のモデル地域である江南市の医療・介護の多職種専門職が定例的に集まり、事業の進捗状況に関する意見交換や課題の共有化を行っている。
構成メンバー	<ul style="list-style-type: none">• 医師• 歯科医師• 薬剤師• 訪問看護師• 医療ソーシャルワーカー• 地域包括支援センター• 居宅介護支援事業所• 江南市 健康づくり課• 江南市 高齢者生きがい課• 尾北医師会 会長• 尾北医師会 事務局長• 尾北医師会 在宅医療連携拠点推進室 
開催実績	平成26年度(5月～9月):5回
今後の予定	毎月1回の定例的な開催を予定している

地域の顔の見える関係作り

1. 課題

多職種が集まる場合、診療時間や勤務時間の違いから、会議開催日程の調整が非常に困難であった。

2. 事前訪問の効果

事前に訪問して趣旨説明を実施したため、日程調整のお願いに応じることができ、初回の支援ネットワーク会議の開催において、構成メンバー全員に出席していただくことができた。



地域の顔の見える関係作り

3. 多職種連携の課題の把握

多職種を対象とした在宅医療に関するアンケートに加えて、歯科医師会と薬剤師会の代表にヒアリングを実施。

4. 江南市の今後の課題

医師会は2市2町を管轄しているため、江南市内の多職種の代表へのアプローチを行ったが、江南市と共同事務局であることから、

次年度は 江南市が市民や多職種に直接働きかける機会を持つ必要がある。

